

2月開講

“近江メソッド”が  
NHKラジオで紹介される!

# 近江アカデミー鎌倉教室

2015年 6月27日

無料体験レッスン受付中!!

(申し込み 052-880-7907)

## 近江誠の直接指導による教育関係者、中上級学習者のための 英語スピーチ・コミュニケーション講座

### 開講の趣旨

各位

文科省による英語科の新学習指導要領がスタートして以来、皆さまにおかれましては日々、創意、工夫を重ねられていることと存じます。今回の改定においては「オーラル・コミュニケーション」の「オーラル」が落ち、「英語コミュニケーション」になっています。これは大変な意味を持ちます。というのは本来英語に「オーラル」と「オーラルにあらざるもの」の区別はないからです。話された文章はいうに及ばず、書かれた文章はどんなものであろうと一例えば詩、散文、戯曲などの文学作品はもちろん、教科書、入試問題の長文であろうと、TOEICの英文であろうと、いずれもその文の語り手のコミュニケーションの産物であり、〈意味は語り手がことばに与えているという言語パロール〉観を土台にしているもので、従来の、〈ことばの中に決定済みのものとして内在している〉という言語ラング観と著しく異なるものだからです。あるべき姿にやっと到達したようですが、この一大パラダイム転換が絵に描いた餅に終わらないようにするためにはどうしたらいいでしょうか。それは必ず英語関係者の英語力と教材処理能力です。残念ながら従来の英語科教育学はこれに対しては結果を出せないでいます。

英語教育は結局のところ教師である。

本ワークショップは音読、朗読、朗読劇、読み聞かせ、レシテーション、スピーチ、演劇、ディベートなどの活動に漠然と興味はあるが別個の、しかも目的と捉えてきた方々に、すべて打って一丸となったオーラルインタープリテーションとモード転換による教授法を体得していただき〈真正コミュニケーション能力〉と〈入試対応能力〉育成の両目的達成の一助としていただくことにある…

### ワークショップは基本的には次のステップで行います。

- 1 与えられた素材を「コミュニケーション7つのポイント」に従って批判的味読（コミュニケーション的な精読）をする。精読とも速読ともつかないリーディングではなく、語りとして原文の話者の意図を探るコミュニケーション的な精読、第三の読みです。方法はスピーチ学の伝統的な訓練である Interpretive Reading（別名 Oral Interpretation=OI）とほぼ同じ解釈法であり、〈理解の仕方によって音読表現は全く異なる〉というところを体験していただきます。
- 2 ①を何度も各自で行い素材を体に馴染ませて行きます。豊かなる出力には豊かなる入力先行します。そのためには耳からの入力だけでは限りがあります。どうしても通常リーディングの対象としか思われていなかったいわゆる文章からの取り込みが必要になります。
- 3 モード転換（素材の語り手の立ち位置を変化させる）を通して、仕入れた英語の内在化を目指すために立ち位置を変えて表現してみる訓練をします。

オーラルインタープリテーションは「素材を語り手の表現行為の産物」として「自分でも表現してみることで実は解釈力を深めていく訓練」でもあります。そしてその深まりをもって素材を朗読表現することで、ネイティブのCDを機械的に真似するよりはるかに深く、素材の表現法が線として迅速に、高い定着度をもって体内に取り込まれ、それが自分自身の表現の中に応用されていくことになるのです。



場所：鎌倉生涯学習センター 第3集会室（31日のみ）、第1集会室

〒248-0006 鎌倉市小町一丁目10番5号

電話：0467-25-2030 FAX 0467-22-1428

日時：1月31日（日）13時00分～17時00分（無料体験レッスン）

2月5日（木）19時30分～21時30分

2月19日（木）19時30分～21時30分（以後毎月2回予定）

申し込み方法：ホームページ「近江アカデミー」（<http://omi-academy.com/>）

【講座内容・お申し込み】（代表）：052-880-7907

【会場アクセス】：090-3442-7582

\*なお近江へ直接連絡希望の方は 090-1782-1303

裏面に受講者の声

# 受講者の声から（近江アカデミーHPより）

**柴原智幸さん** 神田外語大学専任講師。同時通訳者。NHK ラジオ講座講師 アルクの通信講座「1000 時間ヒアリングマラソン」のコーチも務める。

■「近江アカデミー」のレッスンに参加してきました！

南山短期大学名誉教授の近江誠先生が主宰している「近江アカデミー」のレッスンに参加してきました。神田外語学院で教えていた当時、近江先生の「感動する英語」をテキストに使ったことがあり、英文を徹底的に理解・吸収した後に「モード転換」をして、新たな文脈で自分の話したい内容を語って行くという方法論に、深い感銘を受けました。その頃から「いつかお会いしているいろいろお話を伺ってみたい」と思っていたのですが、数年越しの夢がかないまして、実際のレッスンに参加した次第です。参加してみて思ったのは、私の「近江メソッド」の認識が、まだまだ表面的なものにとどまっていたということです。レッスンが始まってすぐにモード転換の前段階の音読（という用語を使っているのかどうか分かりませんが）練習が始まりました。生徒の皆さんが、一人一人英文を音読して行きます。

（中略）

「What are you trying to accomplish by saying what you're saying? です。この点をきちんと意識してから暗記しないと、語り手にのり移れません」という近江先生の言葉に、おっしゃる通りだなあと膝を打ちながら耳を傾けます。

……が、傍観者でいられたのはここまで。

■先生がおっしゃいます、「今の音読ですが、聞き手は誰ですか？」

何と近江先生が私のラジオ講座のテキストを使って、その先のレッスンを進めて下さいました。

光栄ではありますが、ええカッコしい私としては、「ボロを出さないようにしなければ！」と一気に緊張してしまいます。

テキストの英文は何度も目にはしていますが、番組内の英文の朗読はネイティブのナレーター（クリスさんとキャロリンさん）にお願いしており、私が英文を音読した回数は、それほど多くありません。「では、最初から読んでください」

という近江先生の指示を受け、1段落ほど読み終わりました。読み間違わないように、発音を正確に、などと緊張しながら読み終わったところ、先生がおっしゃいます。「今の音読ですが、聞き手は誰ですか？」

しまった！

普段あれだけ学生たちに「通訳はキャッチボール。ボールの受け手を意識しないキャッチボールはないでしょう。常に自分の言葉を誰に向けて放っているのか、ちゃんと受け取ってもらえているのか、注意を払いなさい」などと偉そうに言っていたくせに、完全に聞き手への意識が飛んでいました。修行が足りませんねえ。（詳細はホームページ）

**鈴木基伸さん** 豊田工業高等専門学校（英語担当）

今年（2013 年）で 58 歳になりますー「アラカン（around 還暦）」です。定年までカウントダウンをする歳になりました。そんな私が、2 年前に近江アカデミーの門を叩き、「アラカンの手習い」を始めました。36 年ぶりに「学生」になって、月 3 回のアカデミーの授業に通う—その気分は、「初めて英語を学び始めたころのワクワクした気分」と似ています。

「なぜ近江アカデミーで学ぶとワクワクするのか？」

それは、そこに「本当の学び」があるからだ、と私は思います。日本映画大学教授の川崎賢子さんは、ある新聞に「あたりまえにみえていたものがあたりまえでないことに気づいて、揺れながら脱皮

することが、学生の学び」と書いていました。

アカデミーでの近江先生の指導は、これまで「あたりまえ」と思っていた「英語の学び方」や「英語の教え方」に対する先入観を揺さぶります。自分の「頭」と「心」と「体」にいつの間にかこびりついてしまった「固定観念」がはがされていくのを感じます—この感触に「とまどい」や「混乱」が生じるのは事実ですが、それ以上に、＜「新しい世界」で、「新しい自分」に出会える＞という「期待感（ワクワク感）」を感じます。（詳細はホームページ）

**脇水文子さん** 英語講師 北九州市

「近江先生のもとで、学んでみたい」という 32 年来の望みは、ついに今年の 4 月に、かなえられることになりました。

32 年前の秋、私は、若い時の怖さ知らずで、青山学院大学で行われた大学対抗の、オーラル・インタープリテーションのコンテストに、ドラマのセクションで出場したのです。そこでは、散文、ドラマ、詩などの文学作品を中心に、英語による音声表現がなされていました。オーラル・インタープリテーションについての簡単なレクチャーなども行われました。その当時は、自分も将来、あんなふうによれるといいなと思いつつ、会場を後にしました。そして、恩師、原岡笙子先生（私をコンテストに参加させてくださった）から一言、「今日はね、近江先生というすばらしい先生が来られていたのよ。あなたたちをジャッジしてくださったのよ。」と聞かされました。その時に、近江先生というお名前を、心に留めたのでした。大学 3 年生だった私は、もう少し早く知っていればなあと思ったものです。

大学卒業後は、地元福岡で、教職に就かなければならず、オーラル・インタープリテーションとは、それっきりになってしまいました。

しかし、教職在職中も、両親の介護のため、若年で退職した現在でも、オーラル・インタープリテーションのことを忘れたことは、1 度もありませんでした。先生のご著書が出るとすぐに、買い求めて、ああ、これこれ、と読んでいました。そのうちに、自分の英語をもう一度、何とかしたい、とい

う思いが段々と強くなってきました。けれども、英会話の教室や、資格試験のための講座の受講は、全く考えていませんでした。なぜなら、欲張りな私は、英語をあらゆる側面から学びなおしたいと思っていたからです。学生時代、少し取り組もうとしていた、オーラル・インタープリテーションをとおして、英語を身につけたいと思ったのです。そして、近江先生が、アカデミーを開かれたことをネットで知り、大喜びしました。

近江メソッドは、英語教育の理論を基盤に置き、常に、深い読みを追求し、モード変換、さらには、プレゼンテーションにまでもっていくという、英語習得法の宝石をちりばめた、まさに、本物の学習法なのです。とくに、学習者として、本当にうれしいことは、近江先生ご自身の、生のお声を聞きながら、学習できるということです。CD などではなく、生の音声レッスン中に飛び交っているのです。これは、他のどこにもない、唯一の特徴です。

不世出の先生から、教えていただけるこの幸せを、感じているのは、私だけでしょうか。だからこそ、福岡から名古屋まで、通っているのです。4 月は、生まれて初めての名古屋でしたが、近江先生をはじめ、参加者の皆さんが快く受け入れてくださり、本当に感謝しています。（詳細はホームページ）

**齋藤理紗さん** 主婦・在アメリカ

私は南山短期大学生のころからずっと近江先生に教わってきました。今は夫の仕事の関係でアメリカに住んでいて、アカデミーは長期休暇中です。

アメリカに来て間もないころ、無料英語レッスン(ESL と呼ばれています)のオーラルテストがあり、ある事柄について私の意見を求められました。すると、今まで学んできたいくつかの英文が頭の中にポン、ポンと出てきて、難なく答えることができたのです。テストを終えて担当の先生がおっしゃった言葉は「You're outstanding!」ここ最近こんな生徒を見たことがない、と言われました。質問に対して単発で答えられる人はたくさんいるけど、ある程度まとまった文章で自分の意見を述べることのできる人はなかなかいないのだと思います。その先生もビックリしていたけど、実は私もビックリしていました。

近江先生がいつも「今までインプットしてきたものがそのうち口について出てくる」っておっしゃっていたけれど、こういうことなのか…！近江先生の下で学んできてよかったと心から思った瞬間でした。

それから行く先々で英語上手だねと言ってもらえます。そしてたいてい聞かれるのが、「海外（英語圏）に住んでいたことあるの？」です。

答えは、ありません。私のこの英語は、日本で、近江先生のご指導により培われてきたものです。“英

語圏に行けば英語が話せる”なんていう考えはもう時代遅れです。大切なのは住む場所ではなく、どれだけ努力をするかだと思います。

正直言って、近江先生の授業は厳しいです。そして、初めて近江先生の授業を受けられる方はその学習法、指導法に驚かれるでしょう（実際、私はとても衝撃を受けました）。オーラル・インタープリテーションというものを理解するのにもきっと時間がかかると思います。

それだけ奥が深いのです。でもハマっちゃう人はハマっちゃいます。私みたいに（笑）。驚いても逃げないでください。きついなと思っても逃げないでください。少し、続けてみてください。努力すればしただけ必ずあなたの力となります。英語力だけではなく、人間性を磨くものにもなるでしょう（大袈裟ではなく、本当に）。ずっと近江先生の下で学んできた一人の生徒としてお約束します。

今の英語のレベルや年齢なんて関係ありません。英語を学ぶ意欲のある方、自分を変えたい方、自分が輝ける何かを探している方はぜひ！日本に帰国したらまたアカデミーに戻ります。ともに頑張りましょう！（詳細はホームページ）



**近江 誠（おうみ・まこと）プロフィール** “近江メソッド”NHKラジオ「当世キーワード」創始者

南山短期大学名誉教授。

現在、京都外国語大学院と近江アカデミーとで主として言語パロール観に基づいた英語コミュニケーション教育訓練を行っている。

1941 年静岡生まれ。愛知県立時習館高校教諭を経て 1967 年フルブライト留学生として渡米。米インディアナ大学大学院でスピーチ・ドラマ学の学位を取得。1988 年コロンビア大学客員研究員。

日本コミュニケーション学会第六代、十二代会長を歴任。南山大学・同短大、名古屋大学で教鞭をとる。また各地の講習会、講演、ワークショップを多数行ってきた。

著書には『感動する英語！』『挑戦する英語！』（文藝春秋・15 万部ベストセラー）『英語コミュニケーションの理論と実際—スピーチ学からの提言—』（研究社、大学英語教育学会実践賞）『オーラル・インタープリテーション入門—英語の深い読みと表現の指導—』（大修館書店）『頭と心と体を使う英語の学び方』（研究社出版、アマゾンPOD）『間違いだらけの英語学習—常識 38 のウソトマコト』『歴史に残る大統領の就任演説』（共著）（以上小学館）『あることば訓練の舞台裏』（朝日出版社近刊）その他多数。